

2025年度以降入学生用 常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

- 建学の精神

実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
- 教育理念

自立・創造・真摯
- 学科の教育研究上の目的

(1)人間の様々な心理的過程およびメカニズムを理解し、それを駆使して人間のより良い社会的適応および能力の発揮に寄与することのできる人材を養成する。
(2)人間の基本的な心理的過程およびそれらが複合して起こる諸行動、人間関係に見られる諸現象、さらに不適応行動、問題行動および病理等の理解およびその解決、ならびに諸能力の発揮等のための方略に関する科学的な理解を深め、それらを実践的に生かすことのできる力を身に付けさせるための教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、人間の「心」に科学的にアプローチしてこれをよく理解し、そしてその知識を適切に用いてさまざまな問題に実践的に取り組んで解決を目指すことができ、さらにそれらについて他者にも的確に説明することが出来るようになることを目指して、単に知識を身につけるだけでなく、研究法および実験や実習科目を通じて、実践的に心理学的な問題に取り組む姿勢を身につけるためのカリキュラムを体系的に編成します。		1年次	2年次	3年次	4年次	多くの人が様々な心理的な問題を抱えて社会に適応しにくくなっていたり、自分のもっている心理的な能力を十分に発揮できなくなっていたりする現代、人間の感覚や知覚、記憶、学習、思考、性格、認知、発達など、いわゆる「心」といわれる人間の様々な働きを科学的に理解し、さらに理解したことを駆使して、人間が社会のなかで、より、自己を実現できるようになることに寄与することのできる人材を養成します。	
(2)実施方針	(1)大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	学びの技法Ⅰ・Ⅱ 統計の基礎 情報の処理Ⅰ・Ⅱ キャリア形成と大学 社会調査入門 英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	英語Ⅴ,Ⅵ	人間科学概論			1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)
	(2)心理学の学びの導入として、「心理学概論」、「心理学史」などの授業を通して、幅広い領域を俯瞰し問題意識を高めるための教育を行います。	心理学概論 心理学史					
	(3)科学的な心理学の方法を徹底的に身につけるために、「心理学実験」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」などの授業で、問題意識を高めると同時に、問題解決のためのスキルを養う教育を行います。	心理統計法Ⅰ	心理統計法Ⅱ 心理学研究法Ⅰ 心理学研究法Ⅱ 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ	名著講読			
	(4)人間の基本的な心理的過程やそれらが複合して起こる諸行動、人間関係にみられる諸現象を理解するために、「知覚・認知心理学(知覚)」「知覚・認知心理学(認知)」「学習・言語心理学」「発達心理学」などの基礎領域科目の授業を通して、人間の感情・思考判断の基盤となる知識を深める教育を行います。同時に、知識の体系をなす先行研究の方法・手続、成果にいたるプロセス、方法論を意識した教育を行います。	知覚・認知心理学(知覚)	知覚・認知心理学(認知) 比較心理学 神経・生理心理学 学習・言語心理学 発達心理学 感情・人格心理学				2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)
	(5)心理学基礎領域科目で得られた知識や理論、技能をもとに、基本的な科目から応用・発展的な科目まで幅広い領域の授業を通して、さらに知識を深める教育を行います。自身の専門領域にかかわる問題意識を深めるとともに、知識の体系をなす先行研究の方法・手続、成果にいたるプロセス、方法論を意識した教育を行います。	環境心理学 人間工学	産業・組織心理学 社会・集団・家族心理学(社会・集団) 教育・学校心理学 健康・医療心理学(健康) 応用行動分析学 職場学習の心理学				
	(6)臨床心理学領域(大学における公認心理師となるために必要な科目含む)では、不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決ならびに諸能力の発揮等に関する科学的な理解を促進するために、「臨床心理学概論」のほか「福祉心理学」、「精神疾患とその治療」などの発展的な科目の授業において、実践領域の理解を深める教育を行います。同時に、知識の体系をなす先行研究の方法・手続、成果にいたるプロセス、方法論を意識した教育を行います。	臨床心理学概論 公認心理師の職責	社会・集団・家族心理学(家族) 健康・医療心理学(医療) 福祉心理学 司法・犯罪心理学 精神疾患とその治療 人体の構造と機能及び疾病 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント 関係行政論				3.人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)
	(7)臨床心理学領域(大学における公認心理師となるために必要な科目含む)では、不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決ならびに諸能力の発揮ができるよう「心理学的支援法」「心理実習」などの発展的な科目の授業において、実践的な内容を取り入れた教育を行います。		心理学的支援法	臨床心理学実験実習 心理演習 心理実習	心理実習		
(8)卒業研究のうち「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、専門領域の知識および卒業研究の基礎的技能を深めるために、ディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行います。また、「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、学びの集大成として、それまでに得た知識を実践的に活かせる力を身につけるために、研究テーマを自身で設定し、問題解決および実践を意識した教育を行います。			基礎・応用心理学実験実習 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ	4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応および諸能力の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)		

学士の学位授与

常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)	2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)	3.人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)	4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
学科基本科目		PSY-111	心理学概論	講義	2	1	○			心理学科カリキュラムポリシーに基づき、心理学概論では、心理学に初めて触れることを念頭に、心理学という科学的体系と方法論について、心理学が対象としている各トピックについて傍観することを通じて学問としての枠組みを学びます。授業中は自ら考えることを要求されます。	(1)心理学の科学的体系を理解し、心の基本的な仕組みと働きを理解できるようになる。 (2)心理学の成り立ちを理解できるようになる。	●				
		PSY-112	心理学史	講義	2	1	○			心理学はここを科学する学問です。本授業では心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき、人間の精神活動を科学する学問はいつ成立し、今日までどのように発展したか、また、今日拡大しつつある臨床領域はいつ成立し、社会的要請の影響を受けてどのように発展したかを概観します。単に歴史的流れだけではなく、心理学における理論的背景を理解します。	(1)心理学の今日に至る流れを知ることができる。 (2)現代心理学に至る理論的立場とそれぞれの学派の研究者の系統を知ることができる。	●				
		PSY-121	心理学研究法Ⅰ	講義	2	2	○		観察法と実験計画法	心理学は心的過程を理解する学問である。心的過程を理解するために、その過程に関わる行動(言語行動も含む)のデータを研究目的に沿って収集・分析するのが心理学における実証的研究法(量的研究、及び質的研究)である。そこで、常磐大学、人間科学部、および心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき、この授業では、心理学の様々な研究方法のうち、観察法と実験法について解説する(観察法(5週)、実験法(10週))。この授業により、科学的に測定するスキルや、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理を養うことができるようにする。	(1)観察法と実験法の特徴や種類等を理解できるようになる。 (2)様々な心的過程を調べるための研究方法を自らデザインできるようになる。 (3)これらのスキルの習得により、卒業論文の作成に向けて不可欠となる到達状況の確認ができるようになる。	●	◎			
		PSY-122	心理学研究法Ⅱ	講義	2	2	○		調査法、面接法、臨床研究法	本講義は、2名の教員が交替で、心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき授業を展開します。前半では質問紙調査法の考え方や実施方法の実際について学び人間理解のための一手法を身に付けることをめざします。また、実践的研究、事例研究、混合研究、研究レビューなどを学び、心理学研究法の多様さについて理解できるようになることをめざします。後半では、研究における倫理と面接法などについて、倫理的要請にかなった面接調査等の計画・実施から分析・報告までのプロセスを学びます。	(1)心理学の研究法である質問紙調査の基礎を学び、自らのテーマに適用できるようになる。 (2)実践研究、事例研究、混合研究や研究レビューなど多様な研究法の考え方を理解できるようになる。 (3)面接法などについて学ぶ中で、研究倫理の諸要請にかなった研究の進め方を理解できるようになる。	●	◎			
		PSY-123	心理学統計法Ⅰ	演習	2	1	○			統計学とその使用は科学的な心理学を習得する上で必要不可欠なスキルです。心理学科カリキュラムポリシーに基づき、本講義では心理学で必要とされる記述統計学と推測統計学、さらに統計解析のやり方を実践的に学びます。そして心理学的対象をデータとして捉えることができるようになることを目指します。	(1)必要とされる統計手法について理解し使いこなせるようになる。 (2)データや統計解析結果の解釈を適切に行うことができるようになる。	●	◎			
		PSY-124	心理学統計法Ⅱ	演習	2	2	○			統計学の知識を用いてあらゆるデータの分析を行えることは、科学的な心理学を納めることのみでなく、あらゆる事象を分析する際の大きな足がかりとなります。心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき、本講義では、心理学で主に使われる統計手法、記述方法について実践的に適切な使用ができるための訓練を行います。心理学統計法1を履修していることが望ましい。	(1)心理学で定番のSPSSを使いこなし、有意差検定の適切な使用、相関分析の適切な選出と使用ができるようになる。 (2)効果的なグラフ作成及び分析結果の記述ができるようになる。	●	◎			
		PSY-131	心理学実験Ⅰ	実験	2	2	○			常磐大学人間科学部、および心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき、①心理学の基礎的な研究手法、②実験の計画立案、③統計に関する基礎的な知識を習得します。授業ではまずスキルアップ講習でレポートの書き方の基礎的なことを4週間学びます。その次に、集団実験を2回体験して、それぞれの回でレポートを書き、教員によって厳しいチェックとフィードバックがなされ、一定のレベルに達するまで修正し、再提出します。さらに実験レポートに必要な統計解析や図表の作成の仕方などのレクチャーを2週受け、秋 semester のレポート作成に必要な基礎的なスキルを学習します。	(1)心理学の問題設定の方法、データの収集方法や分析の方法など基礎的な研究手法がわかるようになる。 (2)レポートの書き方を身に付け、実験で実施した内容を記述できるようになる。	●	◎			
		PSY-132	心理学実験Ⅱ	実験	2	2	○			常磐大学、人間科学部、および心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき、①心理学の基礎的な研究手法、②実験の計画立案、③統計に関する基礎的な知識を習得するため、学生は複数の小グループに分かれ、各教員の用意するテーマの実験に3週ずつにわたって参加します。それぞれの実験ごとに、ほぼ毎回レポートを提出し、教員による厳しいチェックがなされます。3週終了後には総合レポートを提出します。また、再履修者については希望に応じて個別に(または別のグループで)指導する場合や、状況に応じて課題内容を変更することもあり得ます。必要に応じて、インターネットを使用した情報検索、ノートパソコン・タブレット端末によるレポート指導・情報共有なども行います。	(1)心理学の問題設定の方法、データの収集方法や分析の方法など基礎的な研究手法がわかるようになる。 (2)結果の読み取り方、それを用いての考察の仕方などが分かるようになる。 (3)レポートの書き方を身に付け、実験で実施した内容を記述できるようになる。	●	◎			
		PSY-231	基礎・応用心理学実験実習	実習	★2	3	○			心理学の基礎的な研究手法や、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を習得するため、心理学実験実習の内容をふまえ、さらに専門的・応用的な実験実習を行う。具体的には、15回の授業期間内で、問題設定・計画・実施・分析・発表までのプロセスとスケジュール管理を主体的に取り組む【PBL(Project Based Learning 問題解決型学習)型授業が展開される。卒論の予行演習としても有意義なものとなる。必要に応じて、インターネットを使用した情報検索、ノートパソコン・タブレット端末によるレポート指導・情報共有なども行う。 授業の大きな流れは以下の通りである。 (1)複数の課題(生計測・実験・フィールドほか臨床心理学領域含む)から1つの課題を選択し、課題毎にグループを編成する。 (2)各グループは担当教員と相談しながらグループで協力してテーマを設定し、計画・実施・分析・発表準備を行っていく。 (3)仕上げとして、プレゼンテーション形式の発表会を行う。 *この授業は半期15週、1週当たり90分授業2回行う。各週、1回(90分)は上記説明のとおりグループに分かれて行い、残りの回は受講生全員で行う。	(1)学生自身の力で心理学の問題設定、研究企画、実験あるいは調査の準備、実施、データ収集、分析を行えるようになる。 (2)限られた期間で成果をあげるマネジメントスキルが身につくようになる。 (3)仲間との共同作業を行う際のスケジュール管理が出来るようになる。 (4)社会人として必要な成果をまとめる力、発信する力(プレゼンテーション能力)を養うことが出来るようになる。	○	◎	●		
		PSY-232	臨床心理学実験実習	実習	★2	3	○			本講義は、医療や司法、福祉現場などにおいて実務経験を有する複数の教員が、その経験を活かして、心理学科カリキュラム・ポリシーに基づきながら、それぞれの臨床心理学的テーマについての知識や手法、考えなどを解説し、学生は実習体験を通して学修を深めます。授業は週に2コマ展開されます。1コマ目は、3回1サイクルで展開し、学生は小グループに分かれて、グループワークやディスカッションなどのアクティブ・ラーニングによって内容を深めつつ、半期で以下の4つのテーマの実習に取り組みます。 1. カウンセリングの基本 2. TEG3(東大式エゴグラム Ver3) 3. 表現療法(箱庭療法や描画療法など) 4. 合同面接の基本 また、もう1コマは履修生全員が同じテーマ(グループ面接の理論と実践、及びロールシャッパ法)の実習を15回受講します。 これらの実習を通して、人間の不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決、自己への気付き、諸能力の発揮等に関する科学的な理解を促進します。	(1)自分や他者をより深く理解できるようになる。 (2)臨床心理学の各種技法が説明できるようになる。 (3)臨床心理学の各種技法を利用できるようになる。 (4)人間の内面を自分の言葉で表現できるようになる。		◎	●	○	③

常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)	2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)	3.人間の不適応行動、問題行動および病理等や心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)	4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
学科専攻科目		PSY-211	名著講読	演習	2	3	○			本科目は、英語で執筆された心理学関係文献の読解を中心とする演習科目です。授業では、心理学カリキュラム・ポリシーに従い、英文を介して検討課題を批判的に吟味し、課題解決の方策を科学的にみいだす実践力を養います。具体的には、英文学術文献を読む際の基本的知識を踏まえた上で、心理学諸領域の学術論文を講読し、心理学研究や臨床実践に必要な専門的な英語力を強化します。	(1) 心理学関連英文文献の基本的専門用語を正しく理解し、適切な日本語に翻訳し説明できるようになる。 (2) 文献研究で調査した事項の要点を批判的に吟味しつつ整理し、適切に報告できるようになる。	●	◎			
		PSY-141	知覚・認知心理学(知覚)	講義	2	1		○		普段、私たちは自分の内部や外部環境からの刺激を見たり聞いたりすることで、自分自身や周囲の状態を認識して適応的な行動をしようとします。このような過程の初期の働きとして感覚・知覚があります。この授業では、心理学カリキュラム・ポリシーに基づいて、自分の身体の状態や周囲の事物を刺激として感覚器官で受容し、大脳の感覚領域で処理していく過程である感覚・知覚の働きや関連する諸現象を学びます。	(1) 感覚・知覚が成立する基本的な仕組みや諸現象を理解できるようになる。 (2) 感覚・知覚の働きからより高次な働きである認知への繋がりを理解できるようになる。	◎	●			
		PSY-142	知覚・認知心理学(認知)	講義	2	2	○			「心」の主要な働きは、大脳機能と関わる、言語、画像などの理解と記憶、思考、注意制御、問題解決などの知的働きがあります。心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、人間の「心」を科学的に理解しようとするときに、それら知的働きを科学的に理解する領域が認知心理学です。担当教員は、精神科クリニック・総合病院などの病院臨床において、認知症・記憶障害・ストレス性のうつ状態、精神疾患などへのセラピーを実施した実務経験に基づき、記憶、知識、注意、思考のメカニズムなどの基礎知識の解説をするとともに、エイジング、ストレス、極度の不安などによって人間の認知機能がどのような影響を及ぼすのかを解説します。さらに日本原子力研究所においてヒューマンエラーの研究に携わった実務経験からは、記憶と行動の失敗メカニズムについて解説します。	(1) 人間の認知機能(記憶、注意、知識、思考・問題解決など)のメカニズムを理解できるようになる。 (2) 認知心理学の実験的研究の方法を理解できるようになる。	◎	●			
		PSY-143	神経・生理心理学	講義	2	2		○		心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、人間の「心」を科学的に理解しようとするときに、「心」の主要な働きは、言語、画像などの理解と記憶、思考、注意制御、感情、動機づけなどの働きがあります。神経・生理心理学の授業では、それらの「心」の働きの基盤となる脳、神経の構造とメカニズム、神経伝達物質の働きなどについて学ぶ。さらに神経・生理学的基盤の機能不全によってどのような症状が生じるのかを学びます。	(1) 脳神経系の構造及び機能を理解できるようになる。 (2) 記憶・感情等の生理学的反応の機序を理解できるようになる。 (3) 高次脳機能障害の概要とその生理的基盤を理解できるようになる。	◎	●			
		PSY-151	学習・言語心理学	講義	2	2	○			心理学カリキュラム・ポリシーに基づいて、前半の10回(1回～10回)では、学習心理学に関する内容、後半の5回(11回～15回)では、言語の習得における機序(ことばを覚える仕組み)と言語の障害について説明します。毎回のトピックについて、講義と予習課題と復習課題にもとづいて、ディスカッション(アクティブ・ラーニングの要素のひとつ)を行います。	(1) 人の行動が変化する過程を理解できるようになる。 (2) 言語の習得における機序と言語の障害を理解できるようになる。	◎	●			
		PSY-152	応用行動分析学	講義	2	2		○		行動分析学では、環境との相互作用の観点から行動現象を理解する。したがって、増やしたい行動が増えないとか、減らしたい行動が減らないといった行動問題は、環境との相互作用が不全の状態にあると捉えるのが行動分析学の視点である。この授業では、心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、行動の原因の考え方と行動変容に関わる原理を紹介し、どのような支援によって行動問題を解決できるかを説明する。これらを学ぶことは、人間の様々な行動現象の基本原理を理解し、その原理を行動問題の解決に応用する方法を身に付けるために重要である。	(1) 学習過程に関わる様々な行動現象の基本原理解し、それらを他者に分りやすく的確に説明することができるようになる。 (2) 行動の原理を人間の行動問題の低減に応用する方法について理解し、その方法を駆使して自己や他者、集団の行動問題を解決できるようになる。		●	◎		
		PSY-171	発達心理学	講義	2	2	○			心理学カリキュラムポリシーに基づき、公認心理師カリキュラムに必要な科目である発達心理学に含まれる事項を扱う。すなわち、①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援、である。	(1) 認知機能、社会性、感情、思考と言語の発達に関する基礎的事項を理解できるようになる。 (2) 人生の発達段階、すなわち乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期における心理と発達課題を理解できるようになる。 (3) 定型発達と非定型発達に関する基礎的事項を理解できるようになる。	◎	●			
		PSY-172	感情・人格心理学	講義	2	2	○			本講義では、心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、感情と人格(パーソナリティ)に関する心理学を学びます。感情や動機づけは、行動を生み出すダイナミックな過程です。人間は理性と感情から成る精神構造を有していて、それらの全体像を示すものがパーソナリティであり、感情や動機づけはパーソナリティから行動を生み出すメカニズムであるといえます。この講義を通して、感情やパーソナリティについて理解し、自分自身や他者の感情、パーソナリティに関わる諸現象を心理学的に考察できるようになることを目指します。	(1) 感情に関する諸理論、および感情喚起の機序について概説できるようになる。 (2) パーソナリティの概念、および形成過程、パーソナリティのさまざまな捉え方について概説できるようになる。	◎	●			
		PSY-181	臨床心理学概論	講義	2	1		○		臨床心理学という学問領域の中には様々な理論やアプローチの方法がある。それは人の悩みや困難が多種多様で、支援といっても一筋縄ではいかない現実から、様々な理論や療法が生まれていったと考えられる。講義では、臨床心理学における代表的な基礎理論・多様な心理療法・現場での支援の特質を学び、人の悩みや困難を理解して支援するための視座を受講生に得てもらえるように解説していく。心理学カリキュラム・ポリシーにもとづき、本授業は医療現場において心理アセスメント・心理相談業務に従事した経験や産業労働分野や教育分野における教職員のメンタルヘルス研修並びに復職支援のプログラムに従事した経験を有する教員がその専門性を活かして担当する。	(1) 臨床心理学における代表的な基礎理論、そこから発展した多様な心理療法(言語的・非言語的アプローチ)の特徴を学び理解することが出来るようになる。 (2) それらが実際に応用されている現場での心理支援について特色を理解して説明できるようになる。		◎	●		
		PSY-182	健康・医療心理学(健康)	講義	2	2	○			健康心理学は、人間の身体的・心理的・社会的要因、あるいは行動的・環境的要因などの要因が、どのように健康や疾病に影響するかを心理学の立場から探究する。本授業では心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、健康心理学の理念、基礎となる理論や概念などを理解し、健康の維持増進、疾病予防、疾病の治療等に影響する心理社会的・行動的課題に関する知識を学ぶとともに、それらの課題解決に向けた支援方法の基本を学修する。この授業を通して、健康心理学の基礎知識を修得し、健康を多面的に理解する見方を身につけることをめざす。	(1) 健康心理学の理念、基礎理論、歴史について説明できるようになる。 (2) 健康教育と健康心理カウンセリングの基本的方法について説明できるようになる。		●	◎		
		PSY-183	健康・医療心理学(医療)	講義	2	2				本講義では、心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、医療現場に関する基礎的な知識(医療における心理職の立ち位置、患者・家族の心理、医療におけるコミュニケーション)、そしてさまざまな医療機関やコミュニティなどの支援の現場における心理・社会的なニーズや課題、そしてその支援の実際について学びます。特に後半では、医療の領域や場面ごとに分けてそれぞれの患者・家族を理解するための基礎知識、そして医療における心理職の役割やチーム医療・多職種との協働(コラボレーション)のあり方について概説します。	(1) 医療機関について、また医療機関内での心理職の役割について概説できるようになる。 (2) 医療現場やコミュニティにおける心理社会的課題、および必要な支援について概説できるようになる。		◎	●		

常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)	2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)	3.人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)	4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応および諸能力の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう	
学科専門科目		PSY-153	比較心理学	講義	2	2		○		私たちの心と他の動物たちの心は何が違うのだろうか。比較心理学は、動物たちの多様な心の働きを研究し、その共通点や相違点を知ること、心の働きを決める要因と進化の過程を明らかにしようとする学問である。本講義では、心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、様々な動物を対象とした研究を通して、動物たちの心の豊かさを知るとともに、ヒトの心がいかに進化したのかを科学的なアプローチから考える。	(1)動物たちの心の働きや心の多様性を学び、ヒトの心がどのように進化してきたのかを科学的に理解することができるようになる。 (2)ヒトの心の働きは動物たちの中でどのように位置づけられるのかを考察し、「人間らしさ」とは何かを考える力を身につけることができるようになる。 (3)ヒトの心の特徴を理解することによって、ヒト社会の在り方について考えることができるようになる。	◎	●				
		PSY-261	産業・組織心理学	講義	2	2		○		産業・組織心理学とは、産業場面での人間行動を心理学的側面から考察する学問である。この講義では、産業・組織心理学で扱ってきた研究を紹介し、職場環境に関わる諸問題を考える。また担当教員の実務経験に基づいた、企業における実際のコンサルティング業務内容なども取り扱う予定である。また、知識を実践的に生かせる力を身に付けさせるために、ディスカッションや簡単な体験なども行う。	(1)産業・組織心理学を体系的に学び、理解できるようになるようになる。 (2)卒業後の就職後に役立てるスキルを身につけるようになるようになる。 (3)公認心理師等カリキュラムにのっとり、「職場における諸問題(キャリア形成に関することを含む)にたいして必要な心理に関する支援」および「組織における人の行動」を理解することが出来るようになる。		●	◎		⑧	
		PSY-262	人間工学	講義	2	1		○		人間工学はこれまで人間が機器類を操作する際にふれる部分(インターフェース)を人間の特性を考慮しながらデザインや配置を工夫する学問である印象が強いが、実際には道具のユーザビリティから作業環境の改善、作業者の健康までとその扱う領域は拡大しつつある。本講義では、人間工学が主に扱う領域について紹介し、我々の日常生活で人間工学が既に活用されているケースについても考えていきたい。 また、知識を実践的に生かせる力を身に付けさせるためにレポートを課し、日常生活における人間工学的デザインを検討し、発表してもらおう。	(1)産業界での人間工学的デザインから日常生活に応用例まで、さまざまなデザインから、ユーザーのニーズを分析することが出来るようになる。 (2)成功事例から将来のニーズを予測し、デザインを創造したり商品を企画したりするスキルを獲得できるようになる。 (3)習得した科学的な手法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができるようになる。		●	◎			
		PSY-263	環境心理学	講義	2	1		○		環境心理学とは、心理学的アプローチにより、環境とのより良い関係を求める領域である。扱うトピックは豊富であり、日常生活における身の回りの問題と空間との関りから安全や防災、街づくりと広範囲であり、心理学領域の中でも問題解決型の領域といえる。この講義では、環境心理学で扱うトピックをなるべく多く取り上げていく。 また、知識を実践的に生かせる力を身に付けさせるために、ディスカッションや簡単な体験なども行う。	(1)環境心理学を体系的に学び、基礎領域・応用領域など心理学の多様な領域・隣接領域との関係を理解できるようになる。 (2)人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。		●	◎			
		PSY-271	社会・集団・家族心理学(家族)	講義	2	2		○	ライフコースと家族の心理	心理学カリキュラム・ポリシーに従い、家族についての知識を学修する。家族を研究対象とする学問は、心理学以外にも社会学、人類学、家政学など様々ながあるが、家族心理学では、家族を構成する成員である夫婦、親子、同胞(きょうだい)、などの関係性を中心的な研究対象とする。この関係性を捉えていく視点として、家族の構造に焦点をあてたり、家族の機能に重心を置いたり、さらには成員間のコミュニケーションのパターンに注目する。さらに、家族・集団及び文化が個人に及ぼす影響について学修する。本講義では、できるだけ事例を提示しながら、現代家族の諸問題について、心理学がどのように捉えて関わってきているかについて学ぶ。	(1)一般常識的な家族理解から、家族を一つのシステムとして捉えられる力を身につけるようになる。 (2)家族内で生じる様々な問題への解決方法を自ら考える力を身につけるようになる。		◎	●			
		PSY-273	社会・集団・家族心理学(社会・集団)	講義	2	2		○		日常の対人コミュニケーション場面において、人がなぜそのような行動をとるのか、ということについて疑問を持つことは多々あるでしょう。社会心理学では、こうした疑問を解決するために、実験や調査を用いて、社会的場面・集団的場面における社会的行動のメカニズムを理解し、予測し、これを制御するための、社会的行動の規則性ないし法則性を明らかにしてきました。本講義では心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、社会心理学的観点から人間や人間社会の諸問題を解決する力を、主に講義形式で学びます。	(1)社会・集団心理学に関する基本的な考え方を理解し、対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程を説明できるようになる。 (2)講義で得た知識を対人場面での問題解決に適用することができるようになる。		●	◎			
		PSY-272	心理的アセスメント	講義	2	2		○		心理的アセスメントとは、個人のパーソナリティの問題となる点に加え、良い点についても見極める作業であり、クライアントに対する適切な援助のために欠かせない。それに加え、その個人を取り巻く人々や置かれた環境・状況を総合的に見立てる活動である。本講義では、心理学カリキュラム・ポリシーにもとづき、心理的アセスメントに関する基本的な内容について、アセスメントの方法や発達期ごとのアセスメントのポイントを取り上げながら解説していく。また、心理的アセスメントが心理臨床の現場でどのように活用されているのか、実際の心理支援の展開例を紹介する回を設ける。	(1)アセスメントの基礎知識を習得し、物事の問題点と良い点について考察する視点を身につけることができるようになる。 (2)人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができるようになる。		◎	●			
		PSY-281	心理学的支援法	講義	2	2		○		学部と心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、心理療法を必要とされる方々が抱える問題や課題について理解を深め、その解決のために役立つ心理療法とは何かについて学修する。また、心理療法を行う心理臨床家の課題や養成についても学ぶ。 本授業は、臨床心理士・公認心理師として心理支援業務を行ってきた教員が、その実務経験を活かして医療・福祉・司法・学校領域にまたがる心理支援の知識と技法について講義する。	(1)心理療法が対象とする問題や課題を説明できるようになる。 (2)各種心理療法の特徴について説明できるようになる。 (3)さまざまな心理的問題や課題に対して、どのような心理療法が効果的であるのかを、科学的な側面から示すことができるようになる。		◎	●	○		③
		PSY-264	福祉心理学	講義	2	2		○		この科目は、心理学カリキュラムポリシーに基づき、公認心理師カリキュラムに必要な科目である福祉心理学に含まれる事項を扱う。すなわち、 ①福祉現場において生じる問題及びその背景、 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、 ③虐待についての基本的知識、である。	(1)福祉現場において生じる問題、心理社会的課題及び必要な支援について理解することができるようになる。 (2)虐待についての基本的知識について理解することができるようになる。		◎	●			①③
		PSY-291	教育・学校心理学	講義	2	2		○		公認心理師カリキュラムの教育・学校心理学に含まれる事項、①教育現場において生じる問題及びその背景、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を含む。これは心理学カリキュラムポリシーに基づくものである。講義では、教育現場における心理的援助に関して理解を深めることを目指す。	(1)教育現場における心理学的問題の背景や原因を分析し、適切な解決の方法を検討することができるようになる。 (2)学校現場における心理社会的支援について説明することができるようになる。		●	◎			
		PSY-292	精神疾患とその治療	講義	2	2		○		保健医療、福祉、教育等の分野における対象者がもつ心理に関する諸問題に対処し、支援を行うための基本となる人間の精神機能、および精神医学に関する知識を学修します。本講義では、心理学カリキュラム・ポリシーにもとづき、精神医療の歴史を概観し、精神機能に関する基礎知識と心の問題に関連する代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療、向精神薬をはじめとする薬剤による心身への影響、および本人・家族への支援、医療機関との連携等についてオムニバス形式で講義を行います。2名の教員は臨床心理士としてそれぞれ精神科クリニックおよび総合病院において心理カウンセリングやリエゾン業務に従事勤務した実務経験に基づき、専門性を活かして担当箇所の講義を交代で担当します。	(1)現在の精神医療における諸問題をとらえ、精神医療・保健・福祉の連携のあり方を理解し、精神医療における公認心理師の役割について考察できるようになる。 (2)精神機能、および各精神疾患の成因、症状、診断法、治療、経過、薬剤による影響等について理解することで、心理に関する支援を行うための根拠となる知識を修得できるようになる。 (3)精神疾患のある対象者と家族への支援について理解し、心理に関する支援を行うための基本的姿勢について述べるようになる。		◎	●			③
		PSY-293	人体の構造と機能及び疾病	講義	2	2		○		この授業では、心理学カリキュラム・ポリシーに基づき、心理支援や福祉支援に必要な心身機能と人体構造の知識を学び、さらに身体的疾病の知識とそこから派生する生活機能の障害について学修を深める。その際に、人の成長や発達の視点のほか、疾病と日常生活との関係を踏まえて生活機能の側面からの理解や、「がん」や「難病」等の心理に関する支援が必要な疾病についても検討を行う。さらに、医学的治療やリハビリテーションなどの身体疾患への対応の概要について学修する。	(1)身体部位の名称と機能、およびその不全による疾病と障害を理解できるようになる。 (2)国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要を理解できるようになる。 (3)心理、福祉支援における身体機能や生活機能の学修の必要性を理解し技能習得に役立てることができるようになる。		◎	●			③

常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)	2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)	3.人間の不適応行動、問題行動および病理過程等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)	4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
		PSY-361	職場学習の心理学	講義	2	2		○		本科目は基礎心理学の知見に基づき、職場と人との関係を学びの観点から心理学的に明らかにしていく。社会人に必須の職場での学びは、体験を通して、学ぶべきものを発見する毎日であり、学校での学びとは異なる。職場の成員になると、どのような学びに遭遇し、組織社会化がおきるのか、職場で一人前になる、とは心理学的にどのようなことなのか、それらの研究方法を示し、事例を交えて解説する。	(1)職場における学びの特性と研究法を理解できるようになる。 (2)仕事に関連した個人特性を知ることができるようになる。		●	◎		
		PSY-274	司法・犯罪心理学	講義	2	2		○		本科目は、刑事司法領域で心理臨床実務経験を有する教員がその経験をいかし、公認心理師の主要活動領域の一つである司法・犯罪領域における法・制度、犯罪や非行の動向、原因論や処遇論に関わる理論、実証研究の知見、再犯防止や更生支援のための支援、被害者の支援、家事事件の概要等を解説します。本科目の学習を通じ、司法・犯罪領域の実務や同領域と連携・協働をする際の基本的知識を習得し、心理学科カリキュラム・ポリシーに定められた社会的病理等への科学的な理解や問題解決に資する実践知識を養います。	(1)司法・犯罪、犯罪被害及び家事事件についての法・制度の基本知識を説明できるようになる。 (2)司法・犯罪分野の主要な理論と支援領域ごとの実務との関連性や意義を説明できるようになる。	◎		●		
		PSY-294	障害者・障害児心理学	講義	2	2		○		公認心理師カリキュラムの障害者・障害児心理学に含まれる事項である、①身体障害、知的障害及び精神障害の概要、②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援を扱う。この内容は心理学科カリキュラム・ポリシーに基づくものである。 この授業を通して、障害のある人への理解と援助の方法を考察し、障害のある人の社会的自立を促進するための方策を検討する。	(1)身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の特徴について説明できるようになる。 (2)医療・教育・福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題と必要な支援を理解し、説明できるようになる。	◎		●		③⑧
		PSY-184	公認心理師の職責	講義	2	1		○		心理専門職として初の国家資格である「公認心理師」について、法律を踏まえた職責を解説する。また、心理に関する支援を要する者等への適切な支援のために必須の事柄について説明し、5つの分野における公認心理師の具体的な業務等について理解を深めていく。後半の実践的な問題を取り扱う授業回では、受講者同士のディスカッションを取り入れて進めていく。 心理学科カリキュラム・ポリシーにある「不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決、および諸能力の発揮等に関する科学的な理解を促進する」ための科目と位置づけられる。 なお、本授業は医療現場において心理アセスメント・心理相談業務に従事した経験や産業労働分野や教育分野における教職員のメンタルヘルス研修並びに復職支援のプログラムに従事した経験を有する2人の教員がその専門性を活かして交替で各回を担当する。	(1)公認心理師の職責について学び、法的義務及び倫理や5つの分野における具体的業務について説明できるようになる。 (2)人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができるようになる。	◎		●		③④
		PSY-382	関係行政論	講義	2	2		○		本科目は、公認心理師が心理臨床業務に携わる場合に必要とされる法や制度、各種施策、その背景理念や心理的支援の実際等を、刑事司法行政実務経験を有する教員の指導により、5つの主要分野(保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野)にわたって学習します。対人援助の仕事では、多機関・多職種がチームとなり連携・支援にあたるが増え、効果的で切れ目ない支援のためには関係分野の法令や制度の枠組みの理解が欠かせません。本科目の学習を通じ心理学科カリキュラム・ポリシーに定められた実践的知識を培います。	(1)心理臨床の諸活動と各種法・制度との関わりを説明できるようになる。 (2)今日の社会が直面する各種課題に法や制度、各種施策がどのように課じられ、実務展開されているか自分で調べ把握し、現状や今後の課題等を検討できるようになる。	◎		●		③
		PSY-383	心理演習	演習	2	3		○		本演習では複数の教員が共同で学部及び心理学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、さらに公認心理師として必要な知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定したロールプレイングや、事例検討で取り上げる。 (ア)心理に関する支援を要する者等に関する(1)コミュニケーション(2)心理検査(3)心理面接(4)地域支援等の知識及び技能の修得 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域連携 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 なお、本演習は医療・教育・福祉・司法領域で公認心理師として直接心理支援を行ってきた教員が、現場の経験を活かした演習を行う。	(1)心理支援のためのコミュニケーション技法、心理検査法、心理面接法、地域支援の方法について学修し、それに基づき具体的なニーズの把握及び支援計画の作成ができるようになる。 (2)チームアプローチのための多職種連携の在り方や、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への実践的理解ができるようになる。	◎		●	○	③
	PSY-384	心理実習	実習	2	3 ³ ₄		○		本授業は、公認心理師法およびカリキュラムポリシーに基づき、公認心理師カリキュラムの心理実習に含まれる事項である、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。ただし、経過措置として当分の間は、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う。 公認心理師法等関連諸規定で定められた実習時間は80時間である。これには学内での事前・事後指導と学内外の施設・機関における実習が含まれる。学内の事前事後指導は、複数の担当教員が共同で担当する。学外実習施設には、実習指導者が置かれており、実習指導者は、本学の実習担当教員と連絡しつつ、実習生への指導を行う。	公認心理師法等に定める事項に基づき、次のことができるようになることを目標とする。 (1)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの実際を理解できるようになる。 (2)多職種連携及び地域連携の実際を理解できるようになる。 (3)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の実際が理解できるようになる。	◎		●	○	③	
卒業研究		THS-201	ゼミナールⅠ	演習	2		3	○		1・2年次の学修をさらに深め、その集大成としての「卒業論文」作成のための学修として位置づけられる。授業では、指導教員の専門領域にもとづいたテーマが設定され、専門書・論文を精読しディスカッションにより理解を深めていく。	(1)心の多様性と普遍性を理解できるようになる。 (2)専門性にもとづいた課題を主体的に発見できるようになる。 (3)英語で論文を読めるようになる。			◎	●	
		THS-202	ゼミナールⅡ	演習	2		3	○		1～3年次の学修をさらに深め、その集大成としての「卒業論文」作成のための学修として位置づけられる。授業では、指導教員の専門領域にもとづいたテーマが設定され、専門書・論文を精読しディスカッションにより理解を深めていく。また、4年次の研究テーマ決定の一助となるよう、グループ討論やグループワークを重視した指導を行う。	(1)心の多様性と普遍性を理解し説明できるようになる。 (2)専門性にもとづいた課題を主体的に発見できるようになる。 (3)英語で論文を読めるようになる。			◎	●	
		THS-301	卒業論文Ⅰ	演習	2		4	○		1・2・3年次の学修とそれらをさらに深めた3年次の「ゼミナール」での学びを踏まえ、その学修の集大成として「卒業論文」作成を目的とした学修として位置づけられる。授業では、学生自らが調べ収集したデータに基づいたグループでのディスカッションやワークを用いて、卒業論文執筆に向けた指導を行う。	(1)問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理できるようになる。 (2)立案と実施をおこなうことでスケジュール管理能力を身につくようになる。 (3)情報や知識を多角的に分析し、表現できる、論理的思考力を身につくようになる。				●	
		THS-302	卒業論文Ⅱ	演習	4		4	○		1・2・3年次の学修とそれらをさらに深めた3年次の「ゼミナール」での学びを踏まえ、その学修の集大成として「卒業論文」作成を目的とした学修として位置づけられる。授業では、学生自らが調べ収集したデータに基づいたグループでのディスカッションやワークを用いて、卒業論文執筆および報告・発表にむけた指導を行う。	(1)専門性を深め、社会貢献を意識した活動を行えるようになる。 (2)立案と実施をおこなうことでスケジュール管理能力を身につくようになる。 (3)研究成果をまとめ、執筆・報告するためのスキルが身につくようになる。				●	

常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)	2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)	3.人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)	4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応および諸能力の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
---------	-------------	-------	-------	--------	--------	----	-----	-----	------------	-----------------------------------	-------------------	--	---	--	--	---

【2024年度以前入学生適用カリキュラム】 常磐大学 人間科学部 心理学科 履修系統図(表形式その2)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

		PSY-131	心理学実験	実験	4		2	○	○	常磐大学、人間科学部、および心理学科カリキュラム・ポリシーに基づき、①心理学の基礎的な研究手法、②実験の計画立案、③統計に関する基礎的な知識を習得するため、学生は複数の小グループに分かれ、各教員の用意するテーマの実験に3週ずつにわたって参加する。それぞれの実験については、ほぼ毎回レポートを提出し、教員による厳しいチェックがなされる。3週終了後には総合レポートを提出する。また、再履修者については希望に応じて個別に(または別のグループで)指導する場合もある。なお、状況に応じて課題内容を変更することもあり得る。また、必要に応じて、インターネットを使用した情報検索、ノートパソコン・タブレット端末によるレポート指導・情報共有なども行う。	(1)心理学の問題設定の方法、データの収集方法や分析の方法など基礎的な研究手法がわかるようになる。 (2)結果の読み取り方、それを用いての考察の仕方などが分かるようになる。 (3)レポートの書き方を身に付け、実験で実施した内容を記述できるようになる。	●	◎			
		PSY-231	基礎心理学実験実習	実習	★2		3		○	常磐大学、人間科学部、および心理学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、心理学の基礎的な研究手法や、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を習得するため、各教員の用意する、心理学実験実習の内容をふまえた、さらに専門的・応用的な実験実習を行う。 【研究スキル向上のための体験型学習】まず、多くの課題(生理計測・実験・フィールドほか臨床心理学領域含む)から1つの課題を選択し体験する。各課題は5週間とする(変更可能性あり)。 *課題例)WEB調査作成スキル課題(申)、行動観察と音響解析(中原)、SD法(高木)、反応時間(渡辺)、行動観察(動物)(荒川)、シェイピング(動物)について(松井)など。 *具体的な教員と課題内容は初回に説明する。 【PBL(Project Based Learning 問題解決型学習)】 課題選択後、担当者毎にグループを編成する。各班は担当教員と相談しながらグループで協力してテーマを設定し、実験実習の準備、実施、分析を行う。例えば、記憶現象、ストレス問題、コミュニケーション問題など多様な領域に関する研究テーマを扱う。 仕上がりとして、プレゼンテーション形式の発表会を行う。卒論の予行演習としても有意義なものとなろう。 また、必要に応じて、インターネットを使用した情報検索、ノートパソコン・タブレット端末によるレポート指導・情報共有なども行う。 *この授業は半期15週、1週当たり90分授業を2回授業を行う。1回(90分)は上記説明のとおりグループに分かれて行う。残りの回は受講生全員で授業を行う。	(1)学生自身の力で心理学の問題設定、研究企画、実験あるいは調査の準備、実施、データ収集、分析を行えるようになる。 (2)限られた期間で成果をあげるマネジメントスキルが身につくようになる。 (3)仲間との共同作業を行う際のスケジュール管理が出来るようになる。 (4)社会人として必要な成果をまとめる力、発信する力(プレゼンテーション能力)を養うことが出来るようになる。		○	◎	●	
		PSY-251	行動分析学Ⅱ	講義		2	2		○	行動分析学では、環境との関わりの観点から行動現象を理解します。相手の行動に問題を感じる場合に、性格や能力などの個人特性を単に批判しても問題を解決することはできません。環境との関わりを通して行動の原因を分析し、その行動が生じやすい環境条件を予測できれば、望ましい方向に行動を導くための環境整備が明確になります。この授業では、カリキュラム・ポリシーに基づいて、人間の行動現象に関わる基本的な原理を理解し、その原理を行動問題の解決に応用する方法について学びます。	(1)古典的条件づけやオペラント条件づけなどに関する行動の基本原理を理解し、その原理を他者に分りやすく的確に説明できる (2)行動の原理を実際の行動問題に応用する方法について理解し、その方法を駆使して自己や他者、集団の行動問題を解決できる		●			